

日本民家園 花便り7月号(1)

～暮らしと植物～



キキョウ 桔梗 正面入口斜面

花はお盆の時に仏壇を飾る盆花。根は生薬の「桔梗根」。秋の七草のひとつで、桔梗紋という家紋もあり、日本人には馴染みの深い植物ですが、現在は絶滅危惧種です。



ムシトリナデシコ 虫取撫子 佐々木家花壇

名前の由来は、茎上部のベタベタした粘液が蟻などの虫を捕らえるから。蜜を横取りする虫から花を守っているようです。江戸時代には観賞用植物でした。



ミソハギ 禊萩 佐々木家裏庭

墓や仏壇に供える盆花。かつては盆花とは、お盆の前に里山からこの季節に咲いている花を集めたものでした。そして、水に浸したミソハギで仏前を清め、祖霊を迎える準備をしました。



トンボソウ 蜻蛉草 作田家～高倉斜面

ランの仲間です。花の構造はちょっと複雑で、トンボが飛んでいるようにも見えますね。園内ではほとんど見かけない植物ですが、生田緑地内にはたくさん自生しています。



ハンゲショウ 半夏生・半化粧 船頭小屋裏

夏至を過ぎた頃、花の近くの葉が白く変化します。花のありかを送粉者(虫)に「ここ！ここですよ！」とアピールしています。花期が終わると葉はまたもとの緑色にもどります。